

はじめに

いまこの時代においては、『協働』というキーワードがさかんに用いられています。

今般策定に至った、この就学前「保育・教育」指針も協働によってもたらされた成果といえるかもしれません。

平成19年、第二期基本計画の策定にあたり、時代潮流を反映しつつ浦安市の未来を見据えて“一緒に新たなまちづくりのビジョンをつくりましょう”と、市民の皆さんに呼びかけました。

その結果、206人も多くの市民の皆さんの賛同を得て市民会議を組織し、大変活発な議論をいただきながら、協働して基本計画を作り上げることができたことは、今も鮮烈な記憶として残っています。そしてまたこのことは、新しい形で、民意を反映した計画づくりの先駆けになったものと確信しています。

この市民会議において、今後の幼児教育・保育施策について討論する過程で、保育園と幼稚園がうまく連携して、市民ニーズとサービスの質的向上を図ることができないものかという観点から提言されたことが、指針づくりのきっかけとなりました。

また、同じ時期に組織改革を行いました。浦安の将来を担う“子ども”をキーワードに、幼稚園、保育園、青少年育成、そしてこどもと家庭の支援という見地から、関連する事業や課題に一体的に取り組む「こども部」の創設は、その柱の一つでありました。

この指針策定においても、いままで近いようで遠い存在だった保育園と幼稚園の職員どうしが、同じ部になったことで、一つの目的に向け、まさにコラボレーション(協働)により、膝を突き合わせ、互いに語りあい、刺激しあい、まとめていったプロセスはとても意義深く、まさに「こども部」の成果であると考えています。

今回、指針づくりに際しては、アドバイザーとして参画していただいた4人の学識者の皆さんより、幅広い視点から大変貴重な助言と、示唆に富んだご意見をいただけたことも、大きな弾みとなりました。心より謝意を表する次第です。

本指針の策定を契機に、より一層浦安の子どもたちがいきいきと成長していけるよう強く願うとともに、地域ぐるみでの子育て支援を含め、こども施策をさらに推進していく所存です。

浦安市長

松崎秀樹